



昭和十年十二月

同窓會誌

昭和高等商業學校同窓會

大正十四年四月廿五日發行

目次

校誌抄	一
校內消息	三
同窓會記事	八
會員氏名錄	一三
職員	一三
財團法人昭和學園理事及監事	一九
財團法人昭和學園評議員	二〇
卒業生	二二
同窓會規約	三一
同窓會役員	三七

校誌抄

四月九日 教授石川彦策校長事務取扱、件認可セラル

四月十六日 第一學年、入學式ヲ行フ

四月二十一日 滿洲国皇帝陛下奉送迎、職員生徒代表九十名参列

五月十日 全校生徒生駒—信貴縱走ピクニックヲ行フ

五月二十六日 石川校長事務取扱實業專門學校校長會議出席、為メ上京

五月二十七日 第一學年、第三學年射擊演習實施

五月二十九日 第二學年射擊演習實施

六月二日 石川校長事務取扱帰校

六月六日 全學年城南射擊場ニ於テ実彈射擊實施

六月十四日 大阪府属松田昇治、同主事小倉榮藏両氏来校視察セラル

七月十一日 文部属北田知成、山崎高西氏並ニ大阪府属浅田知太郎、同主事小倉榮藏氏来校視察セラル

八月一日 配属將校陸軍歩兵中佐阿部修一氏明野飛行學校ニ御轉任、後任トシテ陸軍輜重兵中佐池田耕一氏第十師團ヨリ御来任

九月十日 昭和高等商業學校ト改稱、件認可セラル

九月十八日 本日ヨリ三日間信太山陸軍演習場ニ於テ全學年野外演習實施

九月三十日 校長黒正巖先生ノ就任式ヲ挙グ

十月一日 実業教育五十周年記念式ニ生徒代表三十名参列

十一月一日 熱田神宮御遷座祭ニ付遙拜式ヲ行フ

十一月二十六日 第二學年野外演習實施

十二月二日 第一學年野外演習實施

十二月四日 親王殿下御誕生奉祝提灯行列ニ生徒代表百三十五名参加

校内消息

「知識に対する感激」それはたゞ若人へのみ與へられた特権と云へるかも知れない。夢想だにもしなかつた立派な學校となつたことによつて受ける生徒の喜びこそは譬へやうのない大きいものであらう。それと同時に或は從來にない窮屈さを感じてゐるかも知れない。だが、それはあまりにも嬉しい窮屈さでなければならぬ。服装も正しくなつた。出席状況も著しく良くなつた。小使の婆さんですら「この學校の生徒はよく勉強するやうになりましたなア、目立っておとなしくなりましたで」と感心してゐる位。

九月三十日、黒正、菅野兩先生をお迎へしてその御就任の式を挙げたときの緊

張した心持。その歴史的の光景こそは誰もの胸に深く刻み込まれて終生忘れることは出来ない。黒正先生が壇上に起られて「昭和高等商業學校生徒諸子」と先づ呼びかけられたとき、満堂水を打つたかの如き緊張、感激した生徒の瞳には涙が張り詰められてゐた。次いで菅野先生の力強い訓辭があつて式を終つたとき、生徒は去ることを知らず、その胸の中はたゞ「世界中で一番幸福なのは我々だ」と云ふ心強い喜びで一杯になつてゐた。彼等は今誇りと榮へと高鳴る血汐を躍らせつゝ天地創造の意氣を以て校風建設の偉業大成に勇往邁進をつづけてゐる。

昭和學園が生れ出づるまでには勿論陣痛の悩みはあつたかも知れない。だが生れ出たものは「昭和」の二字がすべてをシンボライズしてゐるが如く、如何にも明るく朗らかなそして何の苦しみも知らない和やかなものであつた。理事、監事の顔触れ、評議員の顔触れを眺めただけでも我々は測り知ることの出来ない心強さを感ぜずには居られない。経営上の缺陷は直ちに教育上の缺陷として鮮かに反

映して来ることは防ぎ得ない、それを思へば昭和学園と云ふ盤石の基礎の上に立つ我が昭和高等商業学校将来の発展隆盛こそは正に期して待つべきであり、この学舎に学び得る者こそ真に幸福である。

我々はこの機会に昭和学園の誕生に際して産婆の大役をおつとめ下さった大阪商科大學長河田嗣郎先生と終始絶大なる御力添を賜った京阪電鉄副社長有田邦敬先生とに対して深厚なる感謝の意を捧げたい。

諸君が學窓を築立つて半歳、昭和学園の誕生によつて母校の基礎は愈々強固となつた。

教授組織も一新された。京都帝國大學と大阪商科大学とから多数の權威ある先生を講師としてお迎へするに至つたことは何と云つても大きい喜びに違ひない。

これも母校のみの持ち得る大きい誇りと云へやう。

母校盤石の基礎固ると共に同窓会組織の運動が期せずして卒業生の間に起つて来た。今まで鳴りをひそめて静まり返つてゐた卒業生の間にかうした運動の起つて来たことは極めて当然のことであつたかも知れない。勿論母校も同窓会組織の必要は充分感じてゐた。学友会と同窓会とはどのような學校にでもある。なくてはならないものに違ひない。だが、それについては學校は拙速を採らず、飽くまで慎重な態度を捨てやうとはしなかつたが眞摯な熱心なる卒業生の要望を聞き捨てる事は出来ない。進んで卒業生諸君と手をとつて同窓会組織の工作にとりか

かつた。學校から石川、建林、妻木、中村、三浦の五人が同窓会創立委員を囑託せられ、先づ規約草案の起草にかゝりその脱稿を待つて卒業生有志總代と同窓会創立幹企人總會の名に於いて会合協議したのが十一月十四日、準備工作は着々進捗して、それから幾か半月の十二月一日には華々しく同窓会創立總會を開催し得て茲に立派に「昭和高等商業學校同窓会」は誕生した。學校の圓滿なる発展は固より卒業生諸君の後援に俟つところが大きい。従つて同窓会の発展は即ち母校の発展と云ふことにもならう。光榮ある昭和高等商業卒業生諸君の團結によつて母校昭和高等商業學校の圓滿なる発展を庶幾して已まない。

同窓會記事

發起人會

十一月十四日大軌ビル三階に於て開催。午後七時より開会の挨拶あり、直ちに次の議事に移る。

一、規約草案審議

一、創立總會開催に関する件

十時半右を議了して閉会。

出席者

學校側	石川 彦作	妻木 正次	中村 清次郎	三浦 利定
卒業生側	市原 卓爾	宇野 善四郎	大谷 孝照	士 永久雄
	豊田 真支	豊田 征	横田 孝	

創立總會

十二月一日（日）午後二時三十分より南海高島屋七階特別室に於いて開催。

此の日折悪しく朝来の豪雨の爲め幾分出足をぞがれた感があつたが、それでも午後一時三十分受付開始と共に参会者相踵ぎ、近郊は固よりのこと、京都、神戸方面から、更に遠く名古屋、伊勢からは木村光義君、渥美二郎君が馳せ参じられる等、開会前既に相当の賑ひを呈した。

午後二時三十分總會に入り、中村清次郎君司会者席に着き開会を宣し、先づ黒正校長起つて校長就任の挨拶並に同窓会設立の趣旨を述べられ、次いで菅野昭和学園常任理事起つて昭和学園設立経過並に将来の計劃について約四十分に亘つて詳細説明せられて後愈々議事に入る。

議案一、同窓会規約草案審議　三浦利定君草案を説明すれば満場一致を以て原案拍手裡に可決、茲に同窓会は成立す。次いで議案二、同窓会規約第九條に

依る評議員選挙の件を附議し、司会者選挙方法を議場に諮るや会長一任となり会長規約第十條及び第十一條に依る幹事及び事務囑託並ひに第九條但書に依る評議員と共に別項の如く評議員を指名す。これにて議事を終了。最後に司会者朝鮮全羅北道廳に奉職する卒業生大塚好明君よりの祝電を朗讀すれば満場拍手して之を迎へ、之れにて總會を終了す。

引続き座を宴会場に移し会食、懇親会に入る。遠来の木村光義君の名古屋甚句を皮切りに会員各自の隠藝の披露があり、最後に黒正会長起つて同窓会将来の発展を祝する力強い挨拶があり、会長の弁士にて「昭和高等商業学校同窓会萬歳」を三唱し盛會裡に閉会、時に午後七時。

尚当日の出席者四十九名、氏名左の如し。

出席者

学校側（順序不同）

卒業生側（受付順）

黒正 巖	菅野和太郎	池田耕一	石川彦作
大森一二	建林正喜	妻木正次	三浦利定
住田照夫	中村清次郎	宮川武雄	堀数馬
浅山 賢	米津次郎	渋谷 葛	河井常三郎
豊田兵市郎	萩田玄次郎		
富田 藤夫	市原卓爾	宇野善四郎	飯塚正二郎
杉野正二	杉山正雄	土永久雄	玉田武美
前田 平	福島鉄造	武川吉男	渥美二郎
高岡季次	豊田 旺	小野坂 真	城野 勝
野田文次良	上野幸一郎	佐藤小一郎	高木直朝
増田 藏	松本憲次	大久保義三	俣野守造

豊田 真夏
 布部 孝夫
 島野 武雄
 木村 光義
 松本 庄太郎
 水谷 好
 横田 孝

會員氏名錄

會員氏名錄

職名	兼任校長	教授	教授	講師	同	同
擔任學科	商業地理	商業地理	特別講義	銀行法記	英語	交通運輸
事務	同窓會長	同窓會長	同窓會長	同窓會長	同窓會長	同窓會長
學位又	大學教授	大學教授	大學教授	大學教授	大學教授	大學教授
出身學校	京都帝國大學	京都帝國大學	京都帝國大學	京都帝國大學	京都帝國大學	京都帝國大學
氏名	黒正 巖	菅野和太郎	西島 弥太郎	石川 彦作	奥山 四郎	大森 一二
現住所	京都市東山区山科御陵大岩一九	兵庫縣武庫郡鳴尾村鳴尾大字西圃四大	大坂市住吉区田辺本町五丁目五四	大坂府三島郡吹田町字泉三三九二	大坂市住吉区阿部野筋四丁目一三	大坂府豊能郡中豊島村岡山二八七

職名	兼任校長	教授	教授	講師	同	同
擔任學科	商業地理	商業地理	特別講義	銀行法記	英語	交通運輸
事務	同窓會長	同窓會長	同窓會長	同窓會長	同窓會長	同窓會長
學位又	大學教授	大學教授	大學教授	大學教授	大學教授	大學教授
出身學校	京都帝國大學	京都帝國大學	京都帝國大學	京都帝國大學	京都帝國大學	京都帝國大學
氏名	黒正 巖	菅野和太郎	西島 弥太郎	石川 彦作	奥山 四郎	大森 一二
現住所	京都市東山区山科御陵大岩一九	兵庫縣武庫郡鳴尾村鳴尾大字西圃四大	大坂市住吉区田辺本町五丁目五四	大坂府三島郡吹田町字泉三三九二	大坂市住吉区阿部野筋四丁目一三	大坂府豊能郡中豊島村岡山二八七

職名	修身學科	修身學科	修身學科	修身學科	修身學科	修身學科	修身學科
担任	担任	担任	担任	担任	担任	担任	担任
事務	事務	事務	事務	事務	事務	事務	事務
學位	學位	學位	學位	學位	學位	學位	學位
出身	出身	出身	出身	出身	出身	出身	出身
氏名	氏名	氏名	氏名	氏名	氏名	氏名	氏名
現住所	現住所	現住所	現住所	現住所	現住所	現住所	現住所
池田耕一	米津次郎	宮川武雄	レ・ク・ハツラー	虎尾正助	豊田興市郎	池田耕一	米津次郎
大阪府三島郡吹田町二七九一	大阪市東淀川区南大道町三一九	大阪市南区北桃谷町五一	大阪市港区四條通り二ノ一四	大阪府泉北郡大津南浜寺	大阪市東淀川区国次町二〇五	京都市東山区東福寺大徳院内	京都市東山区東福寺大徳院内

職名	修身學科	修身學科	修身學科	修身學科	修身學科	修身學科	修身學科
担任	担任	担任	担任	担任	担任	担任	担任
事務	事務	事務	事務	事務	事務	事務	事務
學位	學位	學位	學位	學位	學位	學位	學位
出身	出身	出身	出身	出身	出身	出身	出身
氏名	氏名	氏名	氏名	氏名	氏名	氏名	氏名
現住所	現住所	現住所	現住所	現住所	現住所	現住所	現住所
西垣直記	藤原光治郎	三浦利定	小山田庄七	河井常三郎	川原吉次郎	佐伯三郎	汐見三郎
京都市左京区田中高原町一八	兵庫縣武庫郡芦屋 芦屋アパート内	大阪府三島郡吹田町泉町三四・二		大阪府南河内郡志保野莊四條通り	大阪市住吉区駒川町ハノ一九	大阪市外千里山住宅 赤沢方	京都市左京区吉田神樂岡町六

職名	担任学科	事務	学位又 八杯号	出身学校	氏名	現住所
書記	庶務課	庶務課	経済学士	京都帝国大学	武田長太郎	
同	庶務課	庶務課	文学士	法政大学	原玄徳	京都市左京区浄土寺石橋町三六 黒正方
事務嘱託	庶務課	庶務課			藪田玄次郎	堺市戎、町西一丁目中浜三五
同	庶務課	庶務課			松田誠作	大阪府南河内郡山田村山田二七五

職名	担任学科	事務	学位又 八杯号	出身学校	氏名	現住所
講師	英大会計学	英大会計学	商学士	浪華商業学校	浅山賢	大阪市東淀川区瑞光寺前
同	商業数学	商業数学	商学士	大阪商大高部教授	岡崎良藏	堺市大浜南町三二
同	工業政策	工業政策	経済学士	大阪商大高部教授	藤田敬三	大阪市住吉区田辺本町七丁目三八
同	特別講義	特別講義	経済学博士	京都帝国大学教授	本庄栄治郎	京都市左京区浄土寺石橋町二七
同	英語	英語	文学士	浪華商業学校教授	堀教馬	大阪府三島郡吹田町金田新道五六一
同	商業品算	商業品算	文学士	大阪商大高部教授	長谷太	大阪市東淀川区十三木川西町三ノ六
同	憲法	憲法	法学士	関西大学専門部	吉岡義睦	大阪市住吉区田辺本町七丁目二五
同	憲法	憲法	法学士	関西大学専門部	吉田一枝	大阪府豊能郡豊津村字重水六八〇、七

財團法人昭和學園理事及監事

職名	氏名	現職其他	住所
理事	有田 邦敬	京阪電鉄副社長	兵庫縣武庫郡本庄村深江一〇五四
理事	東 佐平治	京阪電鉄地所課長	兵庫縣武庫郡鳴尾村鳴尾西開四六
常任理事	菅野 和太郎	大阪商科大學教授 昭和商大教授	京都市東山区山科御陵大岩一九
理事	黒 正 巖	京都市帝國大學教授 昭和商大教授	京都市西區土佐堀通り一丁目八
理事	深川 重義	京都市帝國大學教授	京都市左京區淨土寺石橋町二七
理事	本庄 栄治郎	京都市帝國大學教授	京都市左京區吉田中大路町
監事	林 茂久	元第百銀行重役	

財團法人昭和學園評議員

氏名	現職其他	住所
甘 糟 勇 雄	京 護 士	大阪市北區絹笠町一〇
江 崎 政 忠	川崎電氣製作所社長 大阪学生会俱樂部理事	大阪市北區新川崎町一
河 田 嗣 郎	大阪商科大學士長	大阪府泉北郡臨尾村
木 間 瀬 第 三	元兵庫縣知事	大阪市天王寺區小宮町三四
毛 戸 勝 元	元京都市帝國大學教授 京護士法學博士	兵庫縣武庫郡芦屋西新田四五八ノ四
汐 見 三 郎	京都市帝國大學教授 經濟學博士	京都市左京區吉田神樂岡町六
志 波 鷹 治	共同信託副社長	兵庫縣武庫郡御影町城前西六〇ノ二
橋 本 傳 左 衛 門	京都市帝國大學教授 農學博士	京都市左京區北白川小倉町五〇ノ三二

卒業生（イロハ順）

氏名	現職	住所	本籍
飯塚正二郎	神戸親和女子専修学校	神戸市兵庫区中道通六ノ六二	兵庫
井戸田幸一	貿易商	岐阜縣土岐郡多治見町	岐阜
市原卓爾	ライオン歯磨本舗	大阪市天王寺区細工谷町四三	千葉
井上清			兵庫
今田宗三郎	日本電話建物会社	神戸市湊東区荒田町三丁目二四合併地ノ一三	兵庫
生駒俊太郎	神戸商業大学在学	堺市能野町東四丁一七	大阪
岩本 兹	挙動機製造株式会社	大阪市西淀川区大仁東二ノ三 同会社内	兵庫
橋本清邦	入管中	大阪市旭区別所町四二九	大阪
萩原健次	南国モーター会社	鹿児島市上荒田町二一八〇	鹿児島

氏名	現職	住所	本籍
西山 清		大阪府南河内郡植生村大字伊賀	大阪
二神 幸雄		愛媛縣温泉郡高浜上ノ谷一六二〇	愛媛
西田 稔		大阪府南河内郡新屋村一四〇九	大阪
堀越政太郎	貿易会合社	大阪市西区江戸堀北通五丁目三二	大阪
徳永清治 旧名了	西重商店	大阪市東区船越町一丁目 西重商店内	佐賀
豊田 砒	浪華商業学校	神戸市灘区難波駅前郵便局	兵庫
豊田 真支	浪華商業学校	大阪市東淀川区国次町二九 新京阪荘	廣島
富田 藤夫	齒科 医	大阪府豊能郡中豊島村大字服部四一	鹿児島
富田 正夫	会社員	香川縣三宅郡作田村字黒瀨	香川
布部 孝夫	日本商事株式会社	神戸市灘区本町一丁目一五四	滋賀
小野坂 真	日本亜鉛鉱工業会社	尼崎市北竹谷町三丁目一四八	香川

奥川 猛	松竹石鹸会社	大阪市西淀川区大仁西二丁目二五	石川
大久保 義三	三軒家第一小学校	大阪市天王寺区松ヶ鼻町八一	大阪
大塚 好明	全羅北道内務部理財課	全羅北道金州高砂町都木テル内	大分
大坪 光雄	朝鮮鉄道局	京城府朝鮮鉄道局工場	佐賀
岡本 庄太郎	入官	大阪府北河内郡古宮村	大阪
門田 憲雄	地主	高知縣長岡郡三里村池	高知
金山 正明	東洋製罐会社	大阪市此花区草間町三〇	鳥取
河村 嘉男	合同電氣大阪出張所	大阪府中河内郡布施町新喜多三九五	大阪
兼久 運男		大阪市住吉区中野西今川町六丁目二〇	愛媛
横田 孝	日本生命經理課	大阪市住吉区平野西町九〇小川方	廣島
武田 恒三	大阪商運株式会社	大阪市大正区鶴町二丁目六五 田中方	岡山

武川 吉男	松下商店	西宮市用海町一〇六	兵庫
武田 吉衛	満洲ホッパ会社 倉庫主任	中華民国青島市清平路一〇号	岡山
竹下 廣美	郵船会社	日下渡衣中	熊本
高木 直朝	大阪中央電話局東分局	大阪市旭区本川町一四三七	大阪
高瀬 五郎	大阪逓信局用品課	大阪府豊能郡豊中町櫻塚八九七	大阪
高瀬 秀次	万成社	大阪市東区今橋五丁目三九 万成社内	兵庫
高松 朝雄	かん合社	大阪市港区八幡屋松之町二丁目二〇三	山口
田中 一二	小浜小学校	兵庫縣川辺郡小浜村安倉字南茶屋七五二	兵庫
田中 三郎	南国モーター会社	鹿児島縣川辺郡万世町小湊	鹿児島
玉田 武美	武田長兵衛商店	大阪府豊能郡麻田村四四六	大阪
外海波 吉	桃谷順天館	神戸市須磨区若宮町五丁目五	滋賀

土 永 久 雄	竹中工務店	大阪市旭区鳴野町五四六	大阪
塚 原 太 郎	大阪市電氣局	大阪市東成区生野田島町一八。	大阪
長 尾 忠 臣	古、美 術 商	高知市下知一。八二	高知
永 田 能 正		大阪市旭区貝腸町五六ノ二	大阪
永 野 純 正	自家営業	大阪市住吉区山王町四丁目三三	大阪
中 尾 文 作	木吉セルロイド工業所	大阪府南河内郡古市町字古市二。五六	三重
中 島 庸 夫	ダンロップゴム株式会社	大阪市港区魁町三丁目二二	岡山
中 島 清 保	本溪湖煤鉄有限公司	清洲国本溪湖大和町 福井俊夫方	奈良
村 上 千 尋		愛媛縣越智郡岡山村宋方一七二	愛媛
村 中 清	森永製菓	大阪府北河内郡守口町字寺内一七四	大阪
内 田 真 二	自家営業	名古屋市中区阿田知通一丁目一九	愛知
梅 本 典 之	自家営業	大阪市港区八雲町二丁目二。	大阪

宇 野 善 四 郎	大日本除虫菊株式会社	岸和田市沼町三五	大阪
上 野 早 之 助	大阪産業会社	大阪市西成区西田池町一七	大阪
上 野 幸 一 郎	壽 製 作 所	京都市伏見区東町二一二	京都
上 野 幸 一 郎	西陣織物組合	京都市上京区小山大野町六九 明田乙一方	和歌山
隈 田 知 雄		熊本縣宇土郡花園村字古保里四四二	熊本
山 口 正 治		兵庫縣川辺郡小田村決八反田一六	三重
山 口 正 博		和歌山縣海草郡山口村大字里三三五	和歌山
山 口 大 藏	合社	大阪市浪速区元町一七四六	大阪
山 下 三 吉	西島ボンブ製作所	大阪市此花区秀野町二八ノ二	愛媛
山 科 久		大阪府豊能郡岡町櫻塚	廣島
安 武 正 美	武田長兵衛商店	大阪市東淀川区元今里北通二ノ二二	福岡

氏名	現職	住所	本籍
安倉忠熙	入 営 中	兵庫縣武庫郡大庄村今北字弓田九(留守宅)	兵庫
安田 豊	大阪文化技藝女学校	大阪府南河内郡天見村大字清水二四三	大阪
八木 米次	シゲル商会	大阪市北区東野田町一丁目 同商會内	兵庫
松村 浩	広島電気株式会社	広島市東豊屋町一四二ノ三	広島
松村貞治郎	自家 官 書	奈良縣磯城郡櫻井町二四	奈良
増田 藏	ヒロタ鋳刀印刷所	大阪市西淀川区海老江上二丁目三九 同所内 西宮市西波止町三(宅)	大阪
松本正太郎	川崎第百銀行神支店	西宮市津門字稻荷六四	大阪
松本賢二	日出針布製造紡績機械所	大阪府中河内郡府津村鴻池一〇七一	大阪
侯野守造	高野製帽会社	兵庫縣川辺郡川西町鶴ノ莊	兵庫
砂子 晋			大阪
福島鉄造	森永製菓	大阪府豊能郡岡町 櫻花莊	広島
古川吉雄	大阪府鐵道局神戸 車掌所大阪支所	大阪府三島郡吹田町 鐵道寄宿寮	兵庫

氏名	現職	住所	本籍
藤原理一郎	龍入 官 書		本籍
布施 貞夫	中井商店大阪支店	京都市下京区骨屋町三三三	大阪
赤松 仁	大阪商科大学在学	大阪府中河内郡八尾町久宝寺二四〇五	京都
赤坂貞夫		神戸市兵庫区上沢通五丁目	兵庫
赤澤 幸一	中国合同電氣洋行營業所	津山市南新座三九	岡山
青柳讓介		福岡市紺屋町五二	福岡
渥見二郎		三重縣河藝郡栄村中島七五	三重
澤井市雄	入 官 中	大阪府北河内郡四條村	大阪
坂口秀廣	神戸市役所	神戸市湊区馬場町三八四	徳島
坂中次郎	そ こ う	大阪市住吉区南塚山中五丁目二 上田松之助方	京都
佐々木 一	神戸 信用組合	奈良縣高市郡金橋村東坊城 竹越竹吉方	愛媛

佐藤小一郎	大阪市電天下寺車庫	大阪市東成区片江町四五	小西方	神奈川
木村光義	青山商会	名古屋市東区千種町仲田九		愛知
北野三郎	自家営業	大阪市西区南堀江通二ノ二二		大阪
三井貞夫	大鉄社	廣島縣鹿足郡柿木村福川五二五		島根
三木正憲	名古屋高商工経営科 大阪市役所 大阪市役所	名古屋市中区藤成通一ノ二五 藤成アパート内		和歌山
水谷好	宝船冷蔵会社	大阪府中河内郡八尾町一二二		大阪
柴田泰之	三和銀行堀江支店	大阪市西区南堀江下通 同会社内		愛知
島野武雄	満洲電気	大阪市港区東田中町一ノ一三〇		大阪
新家博光	平川洋紙店	西宮市今津町大東一七五		兵庫
平川伊之助	大阪府所監査部検査課	大阪府中河内郡布施町東足代七〇五		兵庫
廣田實		大阪府三島郡千里村 鉄道官舎六ノ二		兵庫
森川白		大阪市大正区三軒家東一丁目八		大阪

氏名	現職	住所	本籍
杉山政雄	大川商行	大阪市港区九條通一丁目五五	大阪
杉野正二	神戸市役所社会課	神戸市湊区平野天主谷	石川
末田種彦	郵便事務	別府市大字別府太呂辺町二一四五	大分
角田源三郎	日本信託銀行	大阪市住吉区遠里小野町二三ノ一	滋賀
城野勝	本後藤合名会社	京都市上京区紫野宮西町二	大阪

同窓會規約

同窓會規約

同窓會規約

第一條 本会ハ昭和高等商業學校同窓会ト称ス

第二條 本会ハ會員相互ノ親睦及母校ノ圓滿ナル發展ヲ図リ実業界ニ貢献センコトヲ以テ其ノ目的トス

第三條 本会ハ前條ノ目的ヲ達スル為メニ左ノ事業ヲ行フ

一、会誌ノ発行

二、母校後援事業

三、會員懇親会

四、其他總會ニ於テ決議シタル事項

第四條 本会ハ本部ヲ昭和高等商業學校内ニ置ク

第五條 本会ハ左ノ會員ヲ以テ組織ス

一、母校卒業生

二、母校教職員

三、財團法人昭和學園理事監事及評議員並ニ本会ニ特別ノ關係アリト認メ會長ノ推薦シタル者

第六條 昭和高等商業學校生徒ヲ以テ会友トス

第七條 本会ニ左ノ役員ヲ置ク

會長 一名

評議員 若干名

幹事 五名

事務囑託 二名

第八條 母校々長ヲ推シテ會長トス

第九條 評議員ハ左ノ割合ヲ以テ同期卒業正會員中ヨリ毎年定期總會ニ於テ選

擧ス、但三名ハ特別会員中ヨリ会長之ヲ囑託ス
同期卒業正会員現在数

二十名未満 一名

同 五十名未満 二名

同 百二十名未満 三名

同 二百名未満 四名

同 二百名以上 五名

第十條 幹事ハ大阪市在住正会員中ヨリ会長之ヲ指名ス、但一名ハ特別会員中

ヨリ会長之ヲ囑託シ常任幹事トス

幹事ノ任期ハ一ケ年トシ、重任ヲ効ケス、但任期満了後トモ次期幹

事就任迄ハ其ノ事務ヲ処理スルモノトス

第十一條 事務囑託ハ特別会員中ヨリ会長之ヲ囑託シ庶務会計ニ関スル事務ヲ取

扱フ

第十二條 会長ハ本会ヲ代表シ会務ヲ總攬ス

第十三條 評議員ハ本会ノ重要ナル事項ニ関シ協議ニ與ル

第十四條 幹事ハ本会ノ事務ヲ処理ス、但重要ナル事項ニ関シテハ評議員ノ同意

ヲ得ルコトヲ要ス、緊急已ムヲ得スシテ此ノ手続ニ出ツルコト能ハサ

リシ場合ニハ爾後遅滞ナク評議員ニ願末ヲ報告シ其ノ承諾ヲ求ムヘシ

第十五條 本会ハ毎年五月定期總會ヲ開ク

第十六條 幹事及評議員ノ必要ト認メヌハ会員五十名以上ノ要求アリタルトキハ

臨時總會ヲ開クコトヲ得

第十七條 本会ノ會計年度ハ毎年四月一日ニ始リ翌年三月三十一日ニ終ル

第十八條 正会員ハ入会ノ当初終身会費トシテ金貳拾圓ヲ納付スヘシ、但入会ト

同時ニ金拾圓ヲ納付シ爾後毎年金参円宛ヲ五年間ニ分納スルコトヲ得、

卒業後五年ヲ経過シタル者ハ金参拾圓ヲ納付シテ正会員トナルコトヲ得、

昭和十四年度以後卒業ノ正會員ハ在学中ニ金貳拾円ヲ納付スヘシ
一旦納付シタル會費ハ如何ナル理由アルモ之ヲ返付セス

第十九條

本會ノ收支決算ハ毎年定期總會ニ於テ之ヲ報告シ其ノ承認ヲ受クヘシ

第二十條

會員ニシテ地方ニ在住スル者ハ其ノ地ニ支部ヲ設置スルコトヲ得、

支部ヲ設置シタルトキハ左ノ事項ヲ本部ニ通知スヘシ

一、支部ノ名称

二、支部ノ所在地

三、支部ノ規約

四、支部ノ役員名

第二十一條

會費滞納数次ニ及ヒタル者ハ第十四條但書ノ手続ヲ經テ除名スルコト
アルヘシ

第二十二條

本規約ノ改正變更ニ付テハ總會ノ議決ヲ經ルヲ要ス

第二十三條

會長ハ評議員ノ同意ヲ經テ本規約施行ノ為メ必要ナル規程ヲ定ムルコ
トヲ得

附 則

第二十四條

評議員ハ第九條ノ規定ニ拘ラス正會員數五百名ニ達スル迄ハ各々其ノ
倍數ヲ選舉スルモノトス

以 上

同窓會役員

會長	黑正 巖
常任幹事	中村清次郎
幹事	市原卓爾
	豊田真直
	増田 藏
評議員	菅野和太郎
	石川 彦策
	三浦利定
	宇野善四郎
	大谷孝照
	富田藤夫
	豊田 砥
事務囑託	原 玄徳
	萩田玄次郎

會費について

正会員は規約第十八條によつて終身會費として金貳拾圓御納付下さい。分納の方は先づ金拾圓を御納付の上、残りは爾後毎年金參圓宛を五年間に御納付を願ひます（この場合は合計金貳拾五圓になります）。

第二回卒業生からは便宜上在學中に納付することになりました。

尚、御納付の方法はなるべく同封しました振替用紙で以て同窓會費として昭和學園宛御拂込を願ひます。着金の上は直ぐ同窓會金庫に振替へられることになつてゐます。尤も、別の方法で御拂込下さつても差支へはありません。

後記

同窓会誌を御送りします。もつと立派なものにしてお届けしたかったのですが、時間と経費とに餘裕がなかったため遂にプリントにしたやうな次第、次号からは活版で立派なものにします。氏名録の編輯については、赤松仁君と市原卓爾君との御助力に俟つところが多い、茲に記して感謝の意を捧げます。氏名録の完璧を期する為め、御転住、御転職の際は早速御知らせを願ひます。

別項記載の方法に依り至急会費を御拂込下さい。

會費について

昭和十年十二月十八日印刷〔非賣品〕
昭和十年十二月二十五日發行

編輯者 中村清次郎
大阪市東淀川区国次町一九七番地

印刷所 甲信堂
大阪市北區善源寺町五丁目一九番地

電話東〇一六七三番

大阪市東淀川区大馬通り 昭和高等商業学校校内

發行所 昭和高等商業学校同窓會

電話北〇四〇九番
根室口大馬路四三九〇番

加入者 財団法人昭和學園